

第5回豊岡市地域コミュニティビジョン策定検討委員会 会議録（要旨）

日 時 令和元年5月27日（月）14時00分～16時00分
場 所 市役所本庁舎 3階 庁議室
出席委員 作野委員長・木村副委員長・井原委員・上田委員・小熊委員・西村委員・森本委員
欠席委員 今西委員

1 開会

2 協議

委員長 前回、委員の皆様から建設的なご意見をいただきました。その後、いろいろな機会でご意見いただき、深化した部分とさらなる検討が必要な部分もあります。それらについては、今回と次回の委員会でしっかりと審議したいと考えています。

それでは「1）素案に対する意見等について」として、事務局より説明をお願いします。

1）素案に対する意見等について

事務局 <素案に対する委員からの意見について説明>

委員長 それでは、「第5章おわりに」の箇所を除いた、それ以外の部分でご質問・ご意見はありますか。

委員G P.9の11行目、学校教育では「また、特別な支援が必要な子どもたちへの」とあり、P.13の6行目では「障がい者の子」という記述となっています。この使い方として統一しなくていいのでしょうか。それとP.26の図表2-40、コミュニティ組織の名称と部会の名前の文字が小さいという意見がありました。名称というものは本来大切ですし、家で言うと表札になるものです。1ページ使って大きくするべきではないでしょうか。

事務局 学校教育の「特別な支援が必要な子どもたち」というのは、障害の有無ではなく、インクルーシブ教育に位置付けられているものです。そして、「障がい者の子」という表現は改める必要があると考えます。P.26の図表についても、校正をしっかりと行い、見やすいものになるようにします。

委員長 先ほどの説明された修正が加えられた部分についても、ご意見を頂ければと考えています。

- 委員D P.52の「地域づくり計画の策定・見直し」についてですが、これは各コミュニティでできそうな気がしないのですが、これからどのようにしたらいいか、行政のテコ入れがいるのではないかなと思いますし、実際どの程度の支援が行えるのか示してもらえればと思います。
- 事務局 こちらとしても「ビジョンをつくって終わり」とならないようにしなければいけないと考えています。アクションプランを立てて地域の進行状況に合わせてアドバイスできるようにと考えています。それは振興局の担当者や、今後上田サポーターが担う中間支援組織も一緒にサポートしていきたいと考えています。
- 委員長 地域づくり計画の話題が出ましたが、地域づくり計画はつくるように示唆しないと主体的につくるところは少ないと思います。ですので、期限を設けたり、予算をつけるという具体的な動きが必要なのだと思います。そのため、アクションプランが必要ということで、それは結構だと思います。しかし失礼ながら、よその市や地域は自分たちでつくっています。佐用町も協議会ができた時、ほぼ全地区で地域づくり計画をつくられました。実行されているかは別としてですが。豊岡では「あり方」の時にも地域づくり計画について挙げていましたが、はじめの一步計画止まりでそれから先がつくられていません。地域力の低さがあると言わざるを得なく、行政含め認識すべきだと思っています。
- 委員E そのほかの点で、ご意見はありますか。
- 委員E 私の地区でも準備会の時、地域づくり計画の案を出しましたが、全く意見が出ず取り下げて、はじめの一步計画止まりです。住民の皆さんにその意識はないのかなと思います。目に見える形の例のようなものがあるのだと思います。私がコミュニティ支援員を辞める時にも、今の役員さんに対して、地域づくり計画が必要なのだということは説明しておいたのですが、まだ具体的になっていないので、他の地区でも地域づくり計画について実際を伴わないものになるのではないかと心配しています。
- 委員長 地域づくり計画については、つくって終わることはあります。しかし、つくるプロセスがとても大事で、そこで地域力が醸成されるものであるため、地域づくり計画の策定を推奨しているのです。
- 委員D 準備会の際はそんな話をする雰囲気もありましたが、始まってしまうと、事業も大変でそんな雰囲気がなくなっている感があります。地域づくり計画をつくる前段階で、行政から地域コミュニティ組織に対して、問題を取り出す練習をさせるように投げかけるアクションのような

ものはいるのかなと思います。

委員C

P.70 の用語解説に入れてもらっていますが、「都市的地域」という用語で、出石の街中や日高の江原周辺も該当するのだと思いますが、この書き方で中心市街地というと、旧豊岡市の市街地と解釈されるのではないのでしょうか。

また、地域づくり計画はプロセスが大事です。計画をつくる過程で地域の現状を再認識、今後どうなっていくのかを描くことが大事であるため、「はじめの一步計画」はそこが片手落ちの部分があるので、地域づくり計画は必要なのです。

委員A

計画をどういう目的でつくるのが、住民にとっては腑に落ちない部分であると思います。福祉でもつながりや支え合いづくりを進めていますが、このことは福祉だけの問題ではありません。これまでできていたことができなくなっている現状でも、地域のなかで困っていなければ他人事になってしまうのは当たり前と言えれば当たり前なのかもしれません。地域を住民と一緒にどう考えていくか、今後どうなるのか、どうしていきたいのかを描けないと、我が事にはならないと思います。組織や地域のなかでも、学び合う場、話し合う場をつくり、それを土台とすることが必要だと思います。

委員長

市と島根大学との共同研究で、コミュニティや行政区に入っていますが、玉を投げない（積極的に投げかけを行おうとしない）と主体的には動かない、動けないものです。その意味でもビジョンは大切であり、策定や活用に向けて具体的アクションをとっていくべきだと考えています。

委員F

ビジョンを全体的に見させてもらったが、（難しく）ついていけないところもあります。また、具体的な事例については、それぞれのコミュニティによって若干違います。そのなかで、ビジョンとしてひとつにしていくのは難しいことだと思います。現場サイドで言うと、働きかけが不足していると考えます。それをやっていかないと、多くの人には認知されません。認知されないと計画をつくっても形にならないので、その点を考えていかなければならないと思います。

事務局

P.70 の用語解説の「都市的地域」について、総務課と協議をした時にも意味が分かりにくいとの意見がありました。ビジョンの原案を作成する時にも、市の様々な計画があつて、そこから引用して書いています。ここでは豊岡市全域の市街地をイメージして書いている訳ですが、わかりやすくする工夫が必要なため、これからも内部協議を行い、作業を進めていく予定です。

委員D

「小さな世界都市」とか「専門職大学」とか、大きく市が変わっていくのに、このビジョンで全く触れないのはどうなのかと思います。若い人が増え、地域も変わっていきます。その受け入れの土壌として、オープンな地域コミュニティであるべきだと思います。

P. 46 の特産品開発にしても、取り組んだからと言って、本当に地区が経済的に豊かになるのか疑問です。そうは言っても、それを削ってしまうと中身はなくなってしまいます。こういうことをして、誰の得になるのかと思います。歴史・文化＝神社仏閣みたいになるけど、食とかをツールにして繋がる、単に売るのでなく、次の世代につないでいくだとか。

商業的にも地域の中でお金を落とすという行為は、ここで考えなくていいのでしょうか。地域の商店で買い物することが、それが自分たちの暮らしにつながるとか。こういうことを言うと豊岡の人は好きじゃなさそうですけど。実際には使わなくなると、無くなってしまふのに。

防災の観点では、雪かきは今後どうしていくのかということも必要だと思います。そういうことを取り組むことが、地域のためになるのではないのでしょうか。

委員長

委員Dの質問に対してですが、「小さな世界都市」に関することはP. 1「第1章 地域コミュニティビジョン策定のねらい」で簡単に触れていますが、地域の動きを未来につなげるなど、「おわりに」のどこかでもう少し丁寧に書くのはどうでしょうか。意味のある、提言性のあるものの方がよいと考えます。

特産品のことは、P. 46「(3)個性ある地域の誇りづくり－①」が該当箇所です。特産品は大事ですが、それしかないというのが問題ではないかと考えます。言われたように、本来は地域のなかでお金をまわしたり、買い物をしたりするということにつながるので、(3)－①を充実させることで、それを満たすことができると考えます。

雪かきについても、全国的に対処策は検討されています。豊岡では大事なことです。「(2)－①地区の防災力が高まっている」に入れることがよいのではないのでしょうか。

次に5章についての協議を行うわけですが、今後も関係課との協議も必要で、どうまとめるかが課題です。委員会はあと2回ありますが、中身の具体的な議論ができるのが今回と次回のみでもあります。しっかりと審議していきたいと思います。

2) 第5章 おわりに

- 事務局 《地域コミュニティと学校教育について説明：小規模特認校の記述については、記載していないことを説明》
- 委員長 学校教育の位置付けに関するところです。教育委員会でも小規模校を含む地区をどう捉えるか検討はしておられますが、結論は出ていない状態です。このビジョンは今年度末には完成させる予定です。このことについては先日、市長に対して私から意見を述べましたが、市長は論点整理をしてほしいと言われました。しかし、一般論として、今後の市の政策と全く逆の内容では整合性が取れないとも言われました。個人的には現在の書きぶりはそんなに踏み込んでいない印象ですが、これから皆さんには忌憚なく意見いただき、どうまとめるかは関係課協議も踏まえ行うつもりです。本日は委員会としての考えを出す場といたします。
- 委員G P. 66 の図表 5-2 は 6 年後の小学校の状況を示している表ですが、インパクト出すのなら 5、10 年後の数字は折れ線グラフにしたほうが危機感として捉えられるのではないのでしょうか。また質問ですが、小規模特認校とはどのようなものでしょうか。
- 事務局 小規模特認校は、居住区の校区を超えて通える学校というイメージです。例として竹野南小のような小規模校に、校区に住んでいなくても五荘校区の子どもたちが通学できるという仕組み。しかし、校区外就学とは違います。
- 委員長 補足しますと、学校の規模は小さすぎるけど、住民側は学校を残したいという思いがあります。そこで、この制度を利用して自然豊かな地区にある学校を残して、存続させるための制度と言えます。
- 委員G 同じ市の中で回しているだけなら、子どもの取り合いになるのではないですか。
- 委員長 例えば、八代小は将来 13 人になるので、規模は小さすぎるが統合せずに特認校とすることで存続させるとします。そして児童数の多い学校ではなじめない子どもや、健康面でより良い自然環境の学校に通うほうがよい子どもが校区を超えて通学することで人数が増え、その学校も一定の児童数を維持できるということです。
- 副委員長 ここの書きぶりでは、要は「住民で考えましょう」と言っているだけではないのでしょうか。
- 事務局 一部の関係者や住民だけで、議論しないようにするということです。
- 委員長 委員長としては、学校統廃合を考える前に、維持できるよう移住定住について検討すべきだということが言いたいです。安易な統廃合を議論

するのは危ないということです。児童数が6学年で16人以下になるのはかなりの小規模校であり、小規模校になったというだけでドミノ倒しのように統合してはいけないということです。統合については慎重になるべきであり、安易な統合で学校をみすみす無くしてしまっただけではいけないのです。市長と話をした際も、現実問題として小規模校があるということを知り、住民も考えなければならないし、教育委員会もこれまでこのことについての議論ができていないと考えています。そのため、この「2-(1)地域コミュニティと学校教育」の後半部分の記述も、あいまいで抽象的な表現になっているのだと思います。

委員A 地域の方と話していると、3世代同居していた子育て世代が、子どもの就学前に街中に引っ越してしまうということがあったと聞きました。そんななかで学校がなくなってしまうと、若い人がその地区で暮らすメリットがなくなってしまうと思います。地域づくりのためにも、これから中心となる世代に対して、子どもを通して地区に住み続けることの大切さを伝えていくことは重要です。地域づくりと学校という問題は、非常に密接であると言えます。

委員E この児童数の表を見てびっくりした。地域の人たちも子どもがいないと自覚はしていますが、ここまで厳しい数字になっていることは自覚していないと思います。本気でやっつけていかなければ、学校がなくなってしまうということを言っていかなければならないと実感しました。個人的には今後の計画でも、具体的に書いてほしいと思います。

委員長 個人的にはこの表はとてもしっかりと思います。転居等で異動することを考えずに、現状の構成で6年後の小学校の規模をあらわしているものです。

委員D どういう形で残していくのかを示さなければ、地域は諦めてしまうと思います。学校を残すためにすることが、地域コミュニティにとってもプラスになるような材料の提供が必要なのではないでしょうか。

委員長 ぜひこの意見を反映させるようにしていただきたいと思います。

委員G 定住担当の職員が出席されていますが、先日見たテレビで、箱根の空き家を家賃1円で貸すことで、移住者が集まってくる取り組みを見ました。そういう支援があればいいなと思います。

オブザーバー 家賃1円は確かにインパクトありますね。こういうことをアクションプランに書いてもらおうと、こちらとしても事業を行うための名目にもなると思います。支援ができるようコミュニティがこういうことやりますと謳ってもらえたら。地域の空き家活用として、「飛んでるローカル」のWEBサイトに掲載している物件は、家の購入等の費用の一部を市が補

助します。最近の動向では、所有者は空き家を売りたいが、移住者はすぐには買えない、賃貸から住んでみたいというミスマッチがあると聞きます。売買を前提としていますが、賃貸できる物件の方がニーズに合っています。コミュニティで空き家に関する情報をまとめていただけると、こういうことも考えていけるのではないかと考えます。

委員長

今の項目 P.42 「2-1-③地区に UI ターンする若者が増えている」に関連するので、そこで触れてもらえたらいいのでは。現在の内容でも趣旨は書いてありますが。

ここで「地域コミュニティと行政区の関係」についても、説明していただきたいと思います。

事務局

《地域コミュニティと行政区との関係について説明》

委員長

ここでの内容について、ご意見・ご質問はございますか。

委員 F

今、ちゃんと行政区のシステムが機能していると思っています。行政区が一定の歴史を経て成り立っているところに、コミュニティが新たに加わりました。行政区とコミュニティがお互いに連携できているところもあるが、不十分な点をどう高めあっていくか、今後どうしていくかだと思います。

事務局

行政区との関係については、事務局としてもやっと関係課協議を進め始めたところですが、具体的なことはまだですが、区長の負担感の解消など、行政区やコミュニティにすべて任せるのではなく、行政として軽減できる方法を考えていきたいと考えます。

委員 F

負担感の解消とはどういうことですか。

委員長

コミュニティは思ったより定着しているが、区長が 1~2 年で交代するのが問題で、区長が代わるたびに課題の解決が振り出しに戻っている現状があります。ここでは残された課題としてしか整理できませんが、個人的意見としては行政区ビジョンが必要だと思っています。

本日の地域コミュニティビジョンの内容についての協議はここまでとし、委員の皆さんには持ち帰ってもらいチェックしたうえで、後日質問としてご提出いただきたいと思います。ここで次に「中間支援組織のあり方検討」について、事務局から説明していただきます。

3) 中間支援組織のあり方検討について

事務局

《中間支援組織についての説明・上田地域サポーターの紹介》

委員長

本委員会はビジョンを策定することが目的の委員会だが、ビジョンの中に中間支援組織が明記されているので、行政としても中間支援組織の準備を進めているということです。中間支援組織についてご意

見・ご質問はありますか。

委員G 今年度の動きに社協との動きなどありますが、学校は入らないのでしょうか。子どもに関することも入れたほうがいいのではないかと思います。

事務局 基本的に地域サポーターの役割は、行政と地域コミュニティ組織との中間支援なので、学校は直接的に関わりません。社協は既に中間支援的な動きをされているので情報共有し、まずは足場を固めるところから始める予定です。

4) その他

委員D 人材育成については行政の役割だと思いますが、これまで地域マネージャー研修とかやってみて、実際どうだったか、成果が上がっているのかをまとめるべきだと思います。今後どういう人を育成したいかを考える上でも重要だと言えます。

事務局 課題と思っはいましたが、これまで整理はしていませんでした。これまで公民館主事が引き続き地域マネージャーとして就いていましたが、生涯学習分野だけという固定観念が抜けない背景がありました。生涯学習分野だけでなく、地域福祉、地域防災、地域振興についてももっと積極的に取り組んでいただく必要のある地区もあります。あり方方針にも地域マネージャーを中心とした地域づくりを考えていましたが、地域マネージャーばかりに負担が増えて、実は地域マネージャー1人ではできない、会長や部会員など地域のあらゆる人を巻き込まないといけません。今後もこれまでの成果と今後の課題を整理していきます。

委員長 このことは、ビジョンでもこの内容は触れるべきだと思います。P. 32「⑦人材発掘・人材育成ができていない」の箇所で、個々のコミュニティ組織のことを想定していますが、それについては人材育成のところに盛り込んだ方がいいですね。これも次回までの宿題とさせていただきます。

それでは予定の時間にもなりましたので、ここで本日の委員会は終了とさせていただきます。

3 次回委員会日程

令和元年7月16日(火)14時～

4 閉会